

石川県剣連だより 剣風春秋

第31号
発行
石川県剣道連盟
広報委員会



「西善延範士追悼稽古会」に参加して

広報委員長 近藤 繁彦

去る十月七日(日)、亡くなられて一年近くになる西善延先生を偲んで追悼稽古会が大阪刑務所体育館で行われた。奥園国義・下村清両範士、上垣友成・花澤博夫両八段を始め日曜会会員百名近くと小松・金沢から二十五名、総勢百二十名を超える参加がありました。

開会式では全員で黙祷を捧げ、辻副会長の挨拶に続いて、穴田石川県連会長、林小松市協会会長が挨拶いたしました。

続いて打太刀上垣八段、仕太刀米村七段の「日本剣道形」を皮切りに、二十組程度の立会を行いました。石川県の剣士の皆さんは、総じて気が充実し途切れない立派な立会が展開できたと思っております。その後約一時間の八段元立ちの

指導稽古、さらに互いの互格稽古を行いました。自分自身の反省と課題を述べると次のとおりです。

下村先生には、目一杯掛かる稽古が展開できたか、また打つ機会として充実した気から無理なく打ち出せたかが課題です。いつも掛かり稽古になってしまいます。

上垣先生には、先を取りいかに柔らかく仕掛けて行くか、打突後に隙をつくらぬなどが課題です。なかなか先を取って無理なく打ち出すのは至難の業です。早く仕掛ければ出小手・返し胴の餌食です。かといって待ってれば、先生の素早い攻撃に打たれ放しです。

花澤先生にも、先を取り仕掛けていくのが課題ですが、息が上がらないようにしっかりと打つため打ち込みます。ただ、打突と打突の間

隙に気がゆるみ打ち込まれてしまう展開が多いようです。

日曜会の先生方とは最大一時間半二十人前後稽古をお願いしたところもあるのですが、第一に当たり前のことですが、一回一回の稽古に全力であたり、手を抜かないことが大事です。後の体力を考えて、セーブしながら稽古していたのでは、自身も向上しませんし、相手の方にも失礼になると考えます。

第二に稽古を漫然と行うのではなく、自分の課題をしっかりと持って挑戦する気持ちで臨むことが必要です。しっかりと気で攻めて(日曜会は気の剣道なので攻め負けなし)自分から打ち出しの機会をつくり打ち込んでいく。また、懸待一致として、相手を引き出している応じ技がスムーズに出るようにしておくことも肝要です。

第三に相手の剣道を見極め、タイプ別攻略法も研究・工夫すべきです。自分の持ち味とするオーソドックスな攻め・打ちを出すのは当然ですが、相手により剣の操作は千差万別です。小柄な体型で出小手・返し胴を得意とする相手に

十年一日の如く面を機械的に打ち込むのはいかがなものでしょうか。どうすれば、出を待っている相手を攻略し、勝ちを制することができかを工夫すべきです。

第四にこれが稽古の最大の利点であり課題なのですが、二十人と稽古しようとも最後の一人まで頑張り抜く精神が最も大事です。あと五人あと三人と数えながら、一人一人に誠意を持って頑張り抜く。自ら崩れて流す稽古にならず、積極的に打ちに出る稽古を克己心を持って最後まで貫く。大変ですが、やり通した後は清々しく、何とも言えない自信が湧いてくるものです。私事ですが、最初にこの稽古の洗礼を受けた際には、喉の渇きに一リットル水分補給したことやくだびれ果てて帰りのJR堺市駅から新大阪駅まで人事不省でほとんど何も覚えていないという思い出があります。

最後に、日曜会の剣道は西先生譲りの「気の剣道」です。従って中心取りが強く、安易に出ると迎え突きを食らうこととなります。単調に面に出るのではなく、タイミングを変え、時には裏からの面で制するなど臨機応変に対応すべき場面が多々あります。

今回の「西善延範士追悼稽古会」は本県・小松市にとっても実り多き機会でありました。参加者皆で、今後とも日曜会の皆様と交流を重ねて、一層の剣道技術の向上につなげていきたいと決意してまいりました。

山下和廣副会長

「北國生きがいスポーツ賞」受賞インタビュー

◎「北國生きがいスポーツ賞」受賞、まことにおめでとございます。まず感想をお聞かせ下さい。

先ず北國新聞社社長さんがこの賞の選考にあたり剣道界を指名していただいたことに感謝したいと思います。とても名誉なことで喜んでおります。

選考に当たっては、県内で24年ぶりの八段位を取得、石川県体優勝、全日本剣道東西対抗出場等の実績と、長年にわたり県の強化委員長として少年から一般まで指導に当たるとともに、六十歳をすぎたなお稽古に励み自らも高いレベルの剣道を目指し日々修練を実行している点が評価していただいたと聞いております。

◎強化委員長として本県の現状・課題・方策について

昨年の国体では少年女子が五位入賞を果たしてくれましたが、その他全国大会での成績はあと一歩で入賞を逃すことが多い現状です。課題として選手の発掘（ふるさと選手も含めて）が先決と思います

が、剣道人口の少ない本県で県警の特練を軸に強化しながら最大の努力をしてみたいと思います。方策として一流の外部講師を招いての若手指導者育成講習（日本剣道形、審判法、指導法）を本年度までに5回実施しました。受講生には剣道に対する意識や指導法、稽古法に変容が見られるようになりました。

◎本年度から取り組んでいるジュニア強化の現状・課題について

近年中学・高校の北信越・全国大会において他の競技と同様に成績が低迷しており、中学・高校に進学してからの強化では遅いと思われます。小学生から強化することが必要と思いいジュニア強化を始めました。本年度は七十数名で6回行いました。基本を重点的に実施しており、試合本位の勝つためではなく将来役に立つ内容にしてあります。子どもたちは回を重ねるごとに正しい剣道ができるようになってきました。来年度は全国スポーツ少年団剣道大会が石川県で開催予定です。ぜひ強化回数を

増やし、上位入賞を目指したいと思えます。

◎現在の山下先生の稽古について

指導者としては、全剣連の「剣道の理念」「剣道修練の心構え」「剣道指導の心構え」の3つを柱に、自らが剣道を正しく、また高い水準を目指し修練が必要と考えています。毎週水金曜日は辰口武道館で特に基本を重点的に指導、火土曜日は県立武道館の稽古と、県外の高段者稽古会にも参加し自らの剣道を高めています。また県内の各種講習会や大会で審判員の質の向上を目指し、指導を強化することにより試合が良くなり、剣道が良くなったと思います。

◎八段を目指す人々へのアドバイスについて

全国大会の審判や講習会講師、全国高段者（六・七段）の審査員の経験から得た知識で、県内の受審者の指導もしております。全国でも合格率では上位にあります。「剣窓」の審査講評に書いてありますが、八段の受審だけでなく、各段位も錬度に応じた基本（竹刀を握る手の内、構え、立ち姿、打突の原理通りの竹刀の振り方）をしっかりと身に付けることが大切、

一足一刀の間合から、一拍子で、気剣体一致の打突ができるようにすることと、打つ機会を自分でつくり、強い攻め込みで相手を浮かせ、引かせ、出させる等の技前の仕事をすることにより、上手く相手を遣うようにできればいいと思います。また、足捌きで左足の踏み切り足は湧泉に力を入れ踏み切り、右足の踏み込み足は低く長く強く踏み込むとすばやい打突につながると思います。受審者は審査員がどんなところを審査するか（良い手の内・構えからしか良い技は出ない）よく勉強して受審されたらと思います。

◎修行歴について

13歳で剣道を始めて早くも54年を経過したことになります。中学校では重岡昇校長先生に手ほどきを受け、高校では矢崎時雄先生、東レ愛知工場では近藤利雄範士の指導を受けました。石川工場に転職になった時、石川県体の6年前で次の年から強化選手に選ばれました。県内外での苦しい稽古や試合で培われた剣道が八段取得と今の剣道につながっていると思えます。

◎ありがとうございました。



三府県学校剣道連盟 合同研修会について

石川県学校剣道連盟事務局長 山辺 哲夫

〈研修会の生い立ち〉

三府県学校剣道連盟というのは、大阪・石川・富山の二府二県の学校剣道連盟の総称であるが、この研修会は昭和五十年九月に全日本剣道連盟の指導者講習会が金沢で開催された折、講習会講師であった小森園正雄範士（修道館第二代館長、後の国際武道大学主任教授）に「石川教員のレベルアップのため大阪の指導をお願いしたい」という申し出が叶えられ、年に一度一泊二日の研修会の形で今日まで続いています。第四回の研修会から富山県が参加し、名称も三府県となり、先般富山県菅武道館で三十八年目の研修会を開催したところであります。

〈経緯・成果〉

当時の大阪学校剣道連盟は、全国教職員大会を初回から数多く開催するとともに、優勝回数からみても全国をリードする立場を維持しており、この交流の中で本県学校剣道連盟は数多くのことを学ん

三府県学校剣道連盟合同研修会のあゆみ

開催年月日	当番県(開催地)	石川・富山・大阪参加者	全国教職員開催地	全国教職員剣道大会記録等	優秀選手
第1回	S50.10.4~5	石川(山代温泉)	22・*・19=41	第17回 愛知	澤田清司
第2回	S51.8.18~19	大阪(修道館)	20・*・38=58	第18回 青森	
第3回	S52.10.15~16	石川(羽咋市)	28・*・15=43	第19回 大阪	大阪第3位
第4回	S53.8.16~17	大阪(修道館)	34・5・1=81	第20回 宮崎	富山初参加(三府県研修となる)
第5回	S54.9.8~9	石川(県武道館)	38・13・25=74	第21回 栃木	大阪第2位
第6回	S55.8.5~6	大阪(修道館)	24・5・48=78	第22回 鳥根	
第7回	S56.8.7~8	富山(庄川温泉)	28・26・22=76	第23回 秋田	田畑武正
第8回	S57.10.16~17	大阪(明星高校)	22・4・47=73	第24回 鳥取	大阪優勝(V3)
第9回	S58.10.22~23	石川(山代温泉)	39・15・27=81	第25回 奈良	大阪第2位
第10回	S59.10.27~28	大阪(明星高校)	26・16・48=90	第26回 新潟	
第11回	S60.10.26~27	石川(山中温泉)	36・18・30=84	第27回 山梨	(大阪学剣道30周年)
第12回	S61.10.25~26	大阪(市東高校)	29・15・67=107	第28回 岐阜	大阪優勝(V4)
第13回	S62.10.24~25	富山(氷見市)	28・24・24=76	第29回 岡山	大阪第3位
第14回	S63.10.29~30	大阪(修道館)	25・16・57=98	第30回 北海道	大阪第3位
第15回	H 1.10.28~29	石川(羽咋市)	41・7・19=77	第31回 福岡	大阪第3位
第16回	H 2.10.27~28	大阪(修道館)	37・12・47=96	第32回 群馬	
第17回	H 3.10.26~27	富山(庄川温泉)	36・25・28=89	第33回 神奈川	小田哲生
第18回	H 4.8.28~29	大阪(修道館)	28・9・45=82	第34回 徳島	石川優勝(V1)、大阪第2位
第19回	H 5.11.27~28	石川(和倉温泉)	38・20・22=80	第35回 石川	石川優勝(V2)、大阪第2位
第20回	H 6.10.22~23	大阪(修道館)	24・9・49=82	第36回 三重	大阪第3位・石川第3位
第21回	H 7.11.11~12	石川(和倉温泉)	41・13・22=76	第37回 東京	【三府県20周年記念研修会】 赤倉一成
第22回	H 8.10.19~20	大阪(中央体育館)	19・12・51=82	第38回 静岡	鹿村吉記
第23回	H 9.11.29~30	富山(庄川温泉)	34・28・26=88	第39回 (慶応義塾)	
第24回	H10.11.21~22	石川(和倉温泉)	40・9・22=71	第40回 大阪	
第25回	H11.11.27~28	大阪(高津高校)	18・13・48=79	第41回 長崎	
第26回	H12.11.25~26	富山(富山工業高校)	28・44・20=92	第42回 宮崎	大阪第3位
第27回	H13.12.18~19	石川(輪島青年の家)	39・27・28=94	第43回 高知	大阪第2位
第28回	H14.11.30~1	大阪(桜宮高校)	22・22・49=93	第44回 兵庫	
第29回	H15.11.29~30	富山(富山工業高校)	23・37・31=91	第45回 富山	富山第3位
第30回	H16.11.27~28	大阪(修道館)	24・16・43=83	第46回 広島	大阪第2位
第31回	H17.10.29~30	石川(和倉温泉)	32・10・26=66	第47回 熊本	【三府県30周年記念研修会】
第32回	H18.10.21~22	大阪(大阪教育大学)	19・7・52=78	第48回 福島	
第33回	H19.10.20~21	富山(庄川温泉)	26・24・22=72	第49回 大分	
第34回	H21.2.28~1	大阪(昭和中学)	16・8・53=77	第50回 愛媛	大阪優勝(V5)
第35回	H21.11.21~22	石川(小松市)	32・20・19=71	第51回 滋賀	
H22年度日程調整付かず開催なし					
第36回	H23.11.19~20	大阪(関西商大・修道館)	21・15・34=70	第52回 山口	
第37回	H24.12.1~2	富山(県武道館)	23・38・18=79	第53回 福井	大阪第2位
				第54回 山形	

できました。一年に一度の高レベルとの交剣は本県教員剣道のレベルアップと意欲の向上に大きく役立ちました。「大阪から学び、大阪に近づく」を合言葉に掲げ、平成三年の石川国体の余力を維持し臨んだ平成四年・五年の全国教職員剣道大会では、二年連続して決勝で大阪と対峙することとなり、本県が悲願の

連続優勝を成し得たことは大阪学校剣道連盟への大きな恩返しとなりました。選手のためまぬ努力もさることながら、たくさんの関係各位の深いご理解とお力添えの賜物と心より感謝いたしております。〈現状・課題〉 本県の学校剣道連盟は、新たな目標に向け県独自で一泊二日の研修会、三府県学校剣道連盟合同研修会並びに全国教職員剣道大会の参加を主たる事業としてこれらの充実に努めておりますが、近年会員数の増加に比してこれら研修会への参加意識が乏しいように感



じられます。今般の中学校武道必修化の情勢からも、中学校教員のみならず教育に関わりのある者すべてが剣道に対する関心を高め、自己研鑽に努めることが求められているかと思えます。多くの教職員が本県学校剣道連盟に加入し、研修場面を通して立派な自己剣道像を創られるよう祈るものであります。



〃若手指導者講習会を受講して〃

宝達志水町立押水中学校 教諭 中西 優登

私は今年度から中学校への赴任となり、初めて剣道部の顧問をすることになりました。指導者としての経験が浅い私にとって、本講習会のように剣道の指導について学べることは、大変ありがたいことと思います。生徒への技術指導や声かけ、チーム全体のマネージメントに至るまで、本講習会で学んだことは今後の指導の拠り所になるものとなりました。

講師の東先生は講話の中で、生徒と共に成長していくことの大切さ、チームの中で選手を活躍させるための声かけについてお話されました。指導者は生徒を指導するだけでなく、このような講習会に参加するなどして自分自身が剣道を学び、常に努力することが大切であるとおっしゃいました。また、選手を活躍させるための声かけの方法や細やかな気配りなど、チームマネージメントについてもお話され、今後の大会に向け、自分のチームでも実践してみようと思えるものが多々ありました。実技指導は主に「木刀による剣

道基本技稽古法」の指導法で、一つ一つの技の原理や理合、指導のポイントについて説明されました。東先生が特に繰り返し説明されたことは、速さではなく正確さを優先して指導すること、手打ちではなく腰で打つことに留意して指導することでした。受講者同士の練習場面では、技の理屈は理解しているものの、やはり理合に合致した打ちをしようとすると大変難しく、東先生から「左拳が中心から外れているよ」とご指導いただいた時には、頭ではわかっているのに難しいなあと、生徒になったような気持ちでした。実技指導後半には応じ技や立ち会いについての指導がありました。ここでも理合に合致した打ちをすることの難しさを改めて感じました。本講習会では指導者自身が剣道を正しく学ぶことが大切であるということをつくづく感じさせられました。これからは今回学んだことを指導の拠り所にして生徒の指導にあたりつつ、私自身も自己研鑽に努めていきたいと思えます。



〃居合道六段審査会にて〃

中村 光成

今回、初めての六段審査会で幸運にも昇段できましたのは、武田先生、土井先生、中村先生をはじめ多くの先生方と同輩の皆様の御指導のお陰であり、家族の協力もあつたからだに本当に感謝しております。

東京での審査会では前日入りし直ぐに審査会場へと向かい、早速床の感触を確かめました。宿泊先では先生方に御指導頂いた序破急

のある居合・仮想敵に対する目付け・気攻めを肝に銘じ当日に備えました。審査は古流二本・全剣連居合三本目（受け流し）・六本目（諸手突き）・十本目（四方切り）で行われました。私は233人中52番で審査まで一時間半程あり、控えている間に審査員の方々の視線の動きを拜見し、一本目「前」の抜き付け・切り下ろしが合否の分かれ目と感じました。念の為、左手の鞘引き・胸の開き・肩甲骨の決め・瞬きをしない事等、一つ一つの要を心の中で確認し、日頃味わえない緊張感を楽しもうと自分に言い聞かせ、審査に

臨みました。しかし、仮想敵を捕らえることに終止し無心のまま終わってしまった、思い描いていた居合ができていたのかわかりません。結局、あるがままの自分しか出せないのだとつくづく思いました。普段の稽古通りどんな状況下でも抜けるよう、更に自己研鑽を積み重ねなければならないと感じました。

浅学非才の身で難しいことは分かりませんが、私にとって昇段や試合に勝つことはあくまで目標であり、大切なことは居合道を志す者として日常生活でも悪しき心があれば、師の顔を思い浮かべ、師に恥じぬような生き方を実践することだと考えています。今後も戴いた段位を汚さぬよう稽古に精進し石川県の居合道発展の為、微力ではあります。が努めてまいりたいと思えます。最後に、石川県は他県の高段者の先生方が出稽古に来られるほど指導される先生に大変恵まれた県です。今後更に、居合道人口が増えていくことを願っています。

合格体験記



〃 剣道七段に合格して〃

吉村 修

この度、愛知県の審査会において、剣道七段に合格させていただきました。およそ十年ぶりに剣道をやり直そうと思い立ったのが二年前。合格が発表された時の感激は何ものにも代え難く、「剣道を続けてきて良かった」と心から思うことができました。

私は、小学一年生から当時の七尾市剣道教室で竹刀を握り始め、剣道が縁で警察官を拝命しました。始めた頃は、三六の竹刀と身長が同じ位でした。

県警では、十年間、機動隊の剣道特練生として精進しました。剣道に向き合うことに関しては、最も苦しい時期でしたが、日々の稽古や全国大会等で、経験し難い沢山の事を学ばせていただき、今でも日々の職務の後ろ盾となっております。除隊後は多忙を言い訳に剣道から距離をおいたのですが、再び気持ちにスイッチを入れてくれたのが、我が子を通う警察学校少年剣道教室の子ども達でした。指導の機会を感じる、正に「一生懸命」な姿に「よし、もう一度剣道

に取り組もう」、ついでに、「ちょっとだけカッコいいお父さんになるう」と思ったのです。

さて、ここからが大変でした。長年染みついたよろしくない癖や体力低下は如何ともし難く、稽古や審査の度に挫折の日々でした。

それでも、絶対にあきらめないとの思いを秘め、受審当日は、自分出来ることだけをしっかりとやらう、慌てるな、打突は爆發させろ、と言いつつも挑みました。立会後は、合否はともかく、出した切った、悔いなしと初めて思うことができました。そう思えただけでも収穫でした。実技審査の結果が発表された時は感激し、何度も何度も番号を見返していました。

今、改めて思いますのは、立ち止まりながらも剣道が続けてきて良かった、という思いに尽きません。ご指導いただいた先生方、剣友の皆様、そして再び剣道に導いてくれた子ども達への感謝を忘れず、これからも一生懸命に剣道を続けていきたいと思えます。

ありがとうございます。



〃 剣道六段審査を振り返って〃

安田 佳史

十一月十八日に行われた六段審査に合格することが出来ました。当日は、同行してくれた友人、受審する先輩方、応援の先生方のお陰で、緊張することなく立会に臨めました。

立会についての感想ですが、第一会場は、思っていたより手数が多く、試合に近いように感じました。一人目の立会では、初太刀の面、攻防からの出小手が打てました。間合いが詰まるとすぐに打突する相手だったため、動きをよく見て技を出しました。

二人目は、全く機会を合わせられず、時間が過ぎていきました。攻めにくさを感じたので、手元が浮くまで間を詰めるようにした結果、出小手、返し胴が打てました。中盤で、小手だけでは印象が悪く感じられたので、遠間から面を打ちましたが、胴を返されませんでした。

稽古は、週二、三回行いました。主に、白山市剣道連盟の先生方に指導を頂きました。特に、合気味の構えを矯正すること、合

気で打つことを念頭に置いて取り組みました。稽古では、先生方の攻めに対して、我慢しきれなくなり、面に出たところを返される、出られなくなつたところを打たれる、の繰り返しでした。十月末、打ちたい、打たれたくない気持ち少し落ち着いた頃に、打突自体は軽かったのですが、先生に領いて頂けた技がありました。今まではとは異なる感覚に多少戸惑いましたが、審査に向けてのヒントになりました。もう一つ、取り組んだことは、某動画サイトで、合格者の立会を見てから稽古に行くことです。真似は出来ませんが、良いイメージをもらって稽古ができました。稽古時間が少なくなつた私にとって、有効な方法だったように思えます。

今回、幸運にも合格させていただきました。諸先生、諸先輩、剣友の皆様にご指導を借りてお礼申し上げます。段位に恥じない剣道を目指し、稽古を重ねたいと思えます。

ホームページ開設一年の運用状況について

副会長・総務委員長 南 信廣

当連盟ホームページは本年十月末をもって丁度開設一年を経過いたしました。

この間の運用は概ね順調に推移しており、その状況等について簡単に報告いたします。総アクセス件数は、一七、〇五四件になりました。分析結果を見えますと、

- 毎月平均して多くある。
- 毎月の約3割が新規である。
- 海外(米、仏、中、韓)からもある。

○携帯、スマートフォンからが増加している。

○平均閲覧時間は三〜四分である。

○新着情報を更新した後の伸びが高い。ことなどが挙げられます。

一方、新着情報の発信件数は、三十九件となっています。内容的には大会結果や昇段審査結果、講習会や理事会の開催状況トピックスなどです。

特に事業や審査・広報等の各委員会からその都度こまめに発信していただいております。このことがアクセス件数の堅調な伸びにつながっているものと思います。

今後、開設のコンセプトである「一般の方にも剣道の魅力を紹介して、剣道人口の増加に資す

る」 「会員への情報提供と利便性に資する」を基本として会員の皆様のご意見等もいただきながら、より一層効果的な運用に努めたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。

【全国大会等の記録(7〜11月)】

◎第4回全日本都道府県対抗女子

7月16日(祝) 日本武道館
1回戦 石川0―①神奈川

先 鍋谷 × 金屋

長塚 × 堀

中 藤田 × 鹿又

千葉 × 迫田

大 岩脇 ーメ高橋

◎第42回全国中学校体育大会

8月18日〜20日 越谷市

男子団体 予選L1位宇ノ氣中

同決勝トーナメント1回戦

三股中(宮崎)④―1宇ノ氣中

女子団体予選L1位宇ノ氣中

同決勝トーナメント1回戦

高山中(鹿児島)①―0宇ノ氣

男子個人1回戦

下池(高松)メー杉田(静岡)

同2回戦 下池メー岩崎(広島)

同3回戦 下池コー土居(香川)

同4回戦 伊藤(埼玉)メー下池

女子個人戦2回戦藤崎コー西村

◎第60回全日本東西対抗(宮崎)

十七将安江(メー八木(滋賀))

◎第67回国民体育大会

9月30日〜10月2日 関市

成年男子1回戦石川③―1山形

先 土谷 ード阿部

星野コーメ鈴木

中 藤井メー 土田

山田メー 貝田

大 宇波メ×メ高橋

同 2回戦広島③―1石川

先 高岡 ーコ土谷

有場ドー 星野

中 高島メー 藤井

山中メーコ山田

大 福井 × 宇波

◎第47回全日本居合道大会

10月20日(土) 静岡県

五段 中村1―②宗像(北海道)

六段 作田0―③原田(神奈川)

七段 松原③―0森本(鳥取)

③―0門前(滋賀)

1―②小坂(大分)

◎第60回全日本選手権大会

11月3日(祝) 日本武道館

1回戦 中村ツー 小谷(千葉)

2回戦 中村 ーメ遠藤(宮城)

審査会合格者

剣道 七段

寺西 千洋 中 剛

嶋 弘 吉村 修

牧 富雄

剣道 六段

田中 正人 安田 佳史

中西 建司 佐藤 勝彦

居合道 六段

中村 光成

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

〔営業品目〕
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



●定休日/月曜日



金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139